

未来へつなげる環境活動支援事業評価委員会 議事録

日時：令和5年5月30日（火） 14：30～16：30

場所：オンライン及び福岡市役所本庁舎 15階 1502 会議室

出席者：評価委員 5名【依田会長、久留副会長、小出委員、村上委員、福岡委員】

申請団体 5 団体

事務局 5 名

<申請事業の評価>

団体活動支援コース B の申請団体への質疑応答

（概要説明 5 分、質疑応答 7 分）

1 環境共生実行委員会

発言者	発言内容
委員	長く活動されているので、非常に充実した活動だと感じている。計画には親子募集とあるが、昨年の参加者数はどのくらいか。また、参加者数の傾向から市民への拡がりが出ていると言えるか。
団体	一人のお子さんに対して一人の保護者としており、人数としては 20 名前後で推移している。拡がりとしては、当事業の活動内容をお知りになった小笹公民館など 2 つの公民館から環境に関する講座の依頼があり、臨海 3R ステーションの自主事業の一環として、どんぐりの実の成る 10 月頃講座を実施した。今後も臨海 3R ステーションで取り扱うごみの分野だけでなく、自然環境を活かした環境分野全般について啓発し、今後の拡がりにつなげていきたいと考えている。
委員	公民館等での講座は、積極的に声かけしていくというよりも申し出があった際に対応していくという想定か。
団体	そういった方向で考えている。まずは、講座の内容を充実させるため、マニュアルを作成することから初めていこうと考えている。
委員	非常に明確な計画で、実行可能性が高く、啓発効果もあると考える。活動場所となる臨海 3R ステーションのビオトープは、市民にオープンな場所なのか。最近では、入手したメダカが野外に放されるという問題があるが、そういった点についてはどのように管理、対応しているのか。
団体	ビオトープは、臨海工場内に立地しているため、工場の許可を得ながら進めている。メダカの管理については、ビオトープ内にメダカを放流される事案が発生したため、種の保全の観点から、捕まえたメダカは観察後に戻している。飼育と観察については、団体が育てた養殖のメダカを渡して行うことにしている。
委員	生態系の保全は非常に難しい点もあると思うが、その点について配慮がなされている点は非常に良いと思う。

委員	自己資金は具体的にどういった種類のものか。
団体	会員の持ち出しである。
委員	こどもたちが、「小さな生き物と共存している」と気づくことができる良い活動だと感じている。活動への参加を通じてこどもたちにはどのような成長が感じられるか。
団体	以前熱心に参加してくれたこどもたちが、主催者側の講座開催の手助けを行ってくれる。こどもたちには、一度参加したら終わり、ではなく、学びを深め、指導する側に成長してほしいと考えている。

2 西新6丁目1区自治会 33:13

発言者	発言内容
委員	事業計画に記載されている環境美化活動の有志70名とは全て大人の方か。
団体	環境美化活動は親子での参加も想定している。
委員	地域公園への植栽・管理活動に参加されるお子さんは、西新小学校の児童が多いのか。
団体	西新小学校の他、西南小学校や神村学園のこどもたちも参加いただいている。
委員	非常に地道で確実な活動が素晴らしいと感じている。しめ縄づくり体検の中で生物多様性についても学ぶとあるが、具体的にはどのような内容か。
団体	生物多様性の説明では、実際の生き物を用いて説明を行うことが難しいため、図鑑を用いたり、板書を使用して説明を行っている。また、水田の維持が洪水機能の緩和につながる点や伝統文化としてのしめ縄の意味や歴史、飾りつけの方法などさまざまな内容を伝えている。
委員	清掃活動以外にも植栽などの活動を実施している地域は少ないと思う。自分が住んでいる地域にもこういった活動があれば参加したい。活動を行うにあたって、地域の年配の方へ参加の声掛けなどは行っているのか。
団体	現在の活動も、特に植栽などは年配の方にたくさん参加いただいている。早良区などが行っているさざえさん通りの活性化にも協力しており、ばらを植えるばらの小道構想という企画を立ち上げ、地域の環境部会や花いっぱい運動に取り組む他団体と連携しながら進めているところ

	である。植物の管理についての講習会には地域の方にも参加いただいております。知識を持った方が増えて、みんなで花を育てていく環境づくりになるよう目指している。
--	---

3 ふくおか環境倶楽部 49：59

発言者	発言内容
委員	地元の放線菌を利用したコンポスト作りは非常に良い取り組みだと感じた。当補助金を活用されて3年目だが、これまでの参加人数と今年度の見込みはどのくらいか。
団体	補助金は3年目になるが、活動自体は18年続けており、相談会に参加される方は年間60名程度で推移している。
委員	コンポストの堆肥の利用場所が少ないという声を聞くが、団体で作成された堆肥はどのように活用されているのか。
団体	団体内部で菜園をしている方が多いため、そちらで活用している。マンションに住んでいる会員は、余ったたい肥を知人に譲るなどしており、それをきっかけにたい肥作りに興味を持ってもらえるなどの動きにつながっている。
委員	今後の活動でたい肥のネットワーク作りにつながると良いと感じている。
団体	ネットワークという面では、公民館などの講座の受講者がその地域でふくおか環境倶楽部のような団体を作って活動され、団体同士が横につながっていければと考えている。
委員	コンポストは様々な種類に挑戦してみたが、最も課題に感じたのは虫の問題である。微生物を利用したコンポストではこのあたりはどうか。
団体	容器の中に虫があふれかえる状況は、コンポストが失敗していることを意味していると考えます。団体で使用するコンポストでは内部の温度が40度から50度以上になることからうじ虫の生育環境から外れており、温度の低い端の方に少しいるくらいで問題にはならない。また新しい基材は、乾燥しているからか、これまでで一番虫がわからない。とはいえ、コンポストは全くわからないということではないし、団体としては生物多様性の社会を構築する中では虫とも仲良く共存していくことを目指している。
委員	公民館で講座を開催されているとのことだが、どのあたりで実施されているのか。
団体	コロナ前はふくおか環境財団のバックアップもあり、非常に多くの公民

	館で実施していたが、コロナ後は、講座の開催希望をいただいた百道公民館や箱崎公民館などで実施している。近く、下山門公民館で実施の予定である。
--	---

4 一般社団法人福岡県中小企業診断士協会 SDGs 推進ネットワーク福岡 1:4:48

発言者	発言内容
委員	講座の対象者はビジネスパーソンに限定されているのか。当補助金の目的としては広く一般の市民への還元性に重きを置いていると考えているが、そういった面はあるのか。
団体	講座は2種類開催予定である。実践講座では、中小企業経営者をターゲットとし、経営の中に SDGs を取り入れる手法や社内体制の作り方などの課題解決になる情報発信を行う。定例セミナーでは、一般の市民の方を対象とし、SDGs の生活への取り入れ方について参考になる情報発信を行う。
委員	SDGs の 17 のゴールすべてを目標に定めるのは不可能だと考えるが、福岡市で SDGs を推進していくにあたって、どのゴールに注力するというプランはあるか。
団体	SDGs の中には大きく環境面と人権教育面があると考えている。環境面としてはエネルギー関係が企業や市民の関心が高い。そのほか、こどもたちへの教育の企画も検討しており、SDGs 自体 STEAM 教育（理系や文系の枠を横断して学び、問題を見つける力や解決する力を育てる学習）との親和性が高いことから、先進的な企業への見学などに向けて動いている。
委員	東京から招聘する講師は実践講座と定例セミナーのどちらの講師か。開催にあたっての広報は行うのか。
団体	11 月頃の開催を予定している定例セミナーで招聘する。広報も行う予定である。
委員	市の補助金を活用される以上、成果の記録と報告をお願いしたい。例えば中小企業向けの実践講座や定例セミナーを実施することで、何名の方に伝えることができたかを経年比較する、アンケートを収集して受講の効果を検証する、具体的に企業や市民のこういった取り組みにつながったかをまとめるなどが挙げられる。
団体	今後成果を記録していく。
委員	中小企業が SDGs を推進することで、福岡市民にどのような啓発効果が見

団体	<p>込めると考えているか。</p> <p>企業が環境面での取り組みを進めることで、福岡市民である従業員の意識を高めることにつながる。企業の事業承継の際なども、SDGsの視点を入れることは経営体質を強くしていく効果があると考えてるので、経営の中にSDGsが取り入れられることで、従業員である市民の方に広がっていけばと考えている。</p>
----	--

5 藍陽農園みんな 1:16:06

発言者	発言内容
委員	食と衣類という組み合わせが興味深い。これまでも取り組まれていたのか。
団体	衣類の生地を土で分解するという取り組みを行っていたことはあるが、衣類自体をリメイクして再利用する取り組みは初めて行う。
委員	リメイクの指導者は会員か、外部講師か。
団体	団体の代表が20年以上アパレル関係の仕事をしていることから、団体の内部講師と、2名の外部講師という想定である。
委員	以前は集団回収の中で古布などを回収していたが、現在では回収拠点まで持ち込む必要がある。リサイクルショップなどだと回収される衣類の制限もある。衣類の処理は困っている方が多いと考えているが、団体としては、衣類がごみにならないように具体的にどういったアプローチを考えているか。
団体	代表に確認して後日お答えする。
委員	市民にわかりやすく伝え、手助けになる活動を実施してほしい。成果発表の際にはそのあたりの成果を報告していただきたい。
団体	了解した。
委員	計画書内に数値目標を明記されている点が良い。衣類のリメイクは市民の関心が高いと考えられるため、リメイク前後の写真をSNSで掲載するなどの手法があるかと思うが、どのような広報を予定しているか。
団体	リメイクのビフォーアフターについては、SNSで発信していく予定である。詳しくはさきほどのご質問と同じく後日ご回答さしあげる。

未来へつなげる環境活動支援事業評価委員会 議事録

日時：令和5年5月31日（水） 15：30～17：30

場所：オンライン及び福岡市役所本庁舎 15階 1503会議室

出席者：評価委員4名【依田会長、久留副会長、小出委員、福岡委員】

申請団体6団体

事務局5名

<申請事業の評価>

団体活動支援コースAの申請団体への質疑応答

(プレゼンテーション7分、質疑応答7分)

1 愛宕の森と緑を守る会 14：45

発言者	発言内容
委員	愛宕神社から室見駅側に行く探索路は、途中の道には降りられないという認識でよいか。また、途中に「企業の所有地のため立ち入り禁止」との看板が立っている箇所があるかと思うが、立ち入って大丈夫なのか。
団体	室見駅側は崖になっているので、降りることはできない。看板のあたりでは、手前から下側に降りてもらえば私有地を通らず歩ける。
委員	看板やベンチの設置など、とても良い取り組みをされていると思うので、表示を工夫されるとより多くの方に利用してもらえるように思う。
団体	マンション建設が始まっており、様子を見ながら進めていきたい。
委員	長く活動されていて、特に熱心にされているツクシヤマザクラの活動など、今後の活動も期待したいと考えている。事業計画に記載されている各活動の参加予定人数はどのくらいになるか。将来的にはどのように増やしていきたいと考えているのか。
団体	市民講座でいうと、こどもたちの管理がある昆虫教室は15名と考えている。森づくりなどの活動だと15名から20名程度が目安である。
委員	参加者は会員が中心か。
団体	常連もいるが、こどもも含めて新しい方の参加がある。
委員	とても良い活動をされているので、より多くの市民に広がっていくことを期待している。
委員	市民向け講座を開催することで、どのような啓発につながったか。
団体	ツクシヤマザクラについて多くの人に知っていただく機会になっている。また、散歩やジョギング中に看板を見ることがや講座などに参加され

	<p>ることで、大人も子どもも自然に親しむきっかけとなり、知識が増える機会になっている。高齢者の方に対しても植物観察会やカズラ編み教室など、楽しみながら興味を持ってもらう機会になっている。</p>
--	--

2 博多湾わかめプロジェクト実行委員会 29：22

発言者	発言内容
委員	活動にはどのあたりの小中学生が参加しているか。
団体	愛宕浜周辺の小中学生である。前は警固公民館に声掛けをしており、今後も公民館にお声掛けしていきたいと考えている。
委員	学校よりも、公民館をメインに声掛けするのか。
団体	公民館のフットワークが軽いため、そちらを中心に考えている。募集自体はホームページ上で行っているの、地域的な偏りはそれほど大きくないと考えている。
委員	昨年度からの変更点が赤字で表示されていて、非常にわかりやすい。昨年度の報告会の中で「わかめを育てて食べるだけでなく博多湾や環境について知識を深める機会となるように」といった意見が出たことに応え、冊子の改訂など環境教育に力を入れている点などから、少しずつ活動が進化されている様子が分かり、期待している。補助金の期間が終了した場合に向けた、自主財源確保の見込みはあるのか。
団体	博多湾関係の企業にお声掛けして、寄付をお願いしている。
委員	企業側が活動に参加されることはあるのか。
団体	一部企業の方に親子でご参加いただいた実績がある。
委員	企業の参加が増えると良いと思うが、その辺りの動きはいかがか。
団体	参加者が増えすぎると、対応が難しいと考えている。環境講話でいうと、会場の問題もある。例えば百道浜で活動していた頃はまもる一むで実施していたが、愛宕浜への変更後は適当な場所がない。福岡女子高校の部屋をお借りして実施したこともあるが、手狭であった。現在は、屋外で紙配布により行っているが、屋外ではパウポの使用などができない点や活動中に実施するため紙が濡れたり飛んでしまう、などの課題も多い。参加者の負担にならないよう配慮しつつ、実施している。わかめの調理では、漁協の建物を借りて屋内で実施しているが、海岸から遠いと課題もある。現状以上の取り組みを進めたいとは考えているものの、適当な会場が見つからず、苦勞している。
委員	大通り沿いのホームセンターなどに協力してもらえないのか。

団体	5分から10分程度の距離にあればと思うが、それらの企業は海岸まで距離が遠い。また予算をかけずとなると厳しい面がある。
委員	身近な食材であるわかめを通じて環境保全について学ぶことのできる意義のある活動だと感じている。市民への還元性という点でお尋ねするが、参加された市民の方の具体的な行動変容、例えば排水溝へ油を流すのをやめるようになったとか、家庭ごみの排出量が減ったとか、そういった効果を感じられる点を把握されているか。
団体	現在のアンケートでは「今まで意識していなかった海の大切さに気が付くことができた」などの感想をいただいております、海への意識の深まりや芽生えにつながったと考えているが、行動の変容まで踏み込んだ内容にはなっていない。今後はさらに進めていきたい。

3 水と緑の楽校 44:58

発言者	発言内容
委員	毎年順調に活動されていると感じている。予算に計上されている農業用フォークと折り畳み一輪車はどういった使用を想定しているのか。
団体	農業用フォークは草刈後の草を集めるために、一輪車はそれを乗せて運ぶために使用する。樋井川ビーチは定期的に草刈を行っており、これまでは刈った草を集めていなかったが、今後は刈った草を集めて自然と親しむ教材にすることを考えている。また公民館などで環境学習の依頼があった際には、その地域に川と親しむ場所を作ることを提案しており、受け入れてくれた公民館と共同で整備することがある。そういった際の使用を想定している。
委員	イベントや活動に、福岡大学の学生はどのくらい関わっているのか。
団体	研究室の学生には声掛けし、手伝いをお願いしている。学生たちはパワーがあるため、手伝ってもらうとこどもたちや地域の方が喜んでくださる。ただし、学生のやりがい搾取につながらないように、研究テーマが近い学生は別として、活動内容にやりがいを感じてくれる学生に参加をおねがいしている。活動の内容によっては10人程度の学生が参加することもある。
委員	会員は16名と少数精鋭かと思うが、目標設定の中に他団体との情報共有やイベントを共催とある。具体的にどのように実施される予定か。
団体	現在でも公民館や地域の環境部会と情報共有を行っている。樋井川にくらべると、室見川には河口から上流まで環境団体が多いので、室見川での活動の際は協力いただいたり、こちらが協力したりという関係にある。また、そういった話し合いも進めている。

4 ウェットランドフォーラム 57：29

発言者	発言内容
委員	個人的に室見川のごみ拾いをして潮干狩りするというイベントに参加しているが、和白干潟のごみはどういった状況か。事業計画の中では春と秋の2回ごみ拾いを計画されているようだが、そこでごみ拾いをされるのか。
団体	和白干潟は博多湾の右奥に位置していて、雁ノ巣など地形が入り組んでいるため、ごみが非常にたまりやすい。また、芦原があるのでごみが引っ掛かりやすく、外に出にくい状況があり、ごみ拾いは追い付いていないのが現状である。和白干潟の一番広い部分は、和白干潟を守る会のみなさんが月に1回清掃活動をされているので、自分たちは、そこでは手の届いていないところを実施している。といっても、ごみ清掃には観察会ほど人が集まらないので、苦勞している。そのほか、唐の原川河口付近は地域の方と連携して清掃している。
委員	セブンイレブンの助成金を受けていらっしゃるが、市の補助金との使い分けはどのようにされるのか。
団体	活動ごとに分けているなどの使い分けはない。互いの申請時期が半年程度ずれているので、セブンイレブンの助成を受けて活動するなかでパンフレットの在庫が少ないことに気が付き、市の補助金に計上させてもらったというのが現状である。
委員	昨年度の報告会でも啓発グッズのクリアファイルなど、委員の関心が高かった。今回のパンフレットも非常に立派で、増刷は良いことだと思う。今年度の目標として、のべ来訪者を400名と記載されているが、参加者に拡がりは生まれているのか。
団体	イベントを実施する際には、公民館を使用させてもらうなど、なるべく地域と連携することを心がけている。例えば採取したあさりをあさり汁にして50名にふるまうという潮干狩りのイベントでも公民館を利用させていただいたが、今年度は公民館のみなさんがあさり汁を作ってくれた。自治会長も出席してくださり、地域との関係は深くなっている。以前は地域の文化祭にパネル展示をさせてもらう形だったが、今は公民館が主催した観察会に団体として協力するなど進化している。香住丘では、自治会が観察会を企画して公民館がタイアップし、自分たちが協力するなどの協働の活動にもつながっている。
委員	セブンイレブンの助成金を得ている点を活かし、金銭的な助成だけでなく、付近のセブンイレブンに活動のチラシを置いてもらうなどの協力は得られないのか。
団体	とても良いアイデアだと思う。働きかけていきたいと思う。

委員	冊子を小中学校に配布された中で、児童・生徒からの感想や先生方から見たこどもたちの行動変容の声など、把握されているか。
団体	2014年に作成し、印刷した3000部の一部は付近の学校にも配布して、1年で在庫は半分になった。その後、配布した学校から「今年も使いたいのでまた配布してもらえないか」との要望の声が多くあったことから随時配布していたところ、2年ほどで自分たちの自然観察会で使用する程度の在庫しか残らなかった。非常に人気が高く、好評だと感じている。

5 (特非) アクションタウンラボ 1:10:12

発言者	発言内容
委員	5つのコンテンツを予定されていて、そのうち3つが小学生向けとのことだが、参加者は主にリピーターを想定しているのか。
団体	サマーキッズラボはこれまで2回実施しており、団体としてはこれ以外にもこども向けの企画を複数回実施しているため、リピーターの参加を期待している部分もある。しかしそれでは拡がりがないことから、補助金が決定されればという前提ではあるが、チラシの配布先の小学校を香椎近辺のこれまでの5校から、千早、三苦、照葉などへ広げた10校以上に配布したいと考えている。新しいエンドユーザーを獲得していきたい。
委員	これまで開催されたイベントでの参加者の反応を見ながらコンテンツを組み立てられているように感じた。ごみからの贈り物など、SDGsやサステナブルなどを視点に取り入れた良い取り組みだと思う。非常に充実したコンテンツであるが、実施時期が7月、8月中心となっており、期間内に実施するのは負荷が高いように感じられるが、いかがか。
団体	自分たちは中間支援団体にあたり、定款に記載のすべての活動を行う団体である。そのため環境にとどまらず、子育て支援など様々な団体との付き合いがある。例えばこども食堂での関係があったことから、企画で使用する規格外野菜はベジフルスタジアムさんから提供いただくことが決まった。このように、幅広い関係団体の協力がある。またイベント自体は夏休み時期に集中させているが、準備自体は1月頃からはじめており、半年以上の準備期間をかけて動いている。
委員	環境に関する補助金であるので、成果をご報告いただく際には、環境の面でどのような啓発効果があったか、こどもたちから保護者に伝わりどのような行動の変化につながったかなどをご報告いただきたい。
団体	これまでの実績でお伝えすると、蜜蝋ラップ作りは、保護者から非常に大きな反応があった。蜜蝋ラップ自体をご存じでない方が多かったこと

委員	<p>もあり、子どもたちが持ち帰ったものをご覧になり、「ラップの代わりに家で使用している」「子どもに教えてもらいながら自分でも作った」などのご家庭の声をいくつもいただいた。福岡でも糸島などに蜜蝋の蜜から作っている団体がいくつかあり、また布と蜜蝋とアイロンさえあれば家庭でも簡単に作れることから、今後環境にやさしいアイテムとして浸透していくのでは、ということで一昨年に講座を実施した。こういった声からも、啓発効果を実感している。そのほかにも、去年開催したマイクロプラスチックの講座に参加した子は、毎週海岸でゴミを拾っている。そこで拾ったゴミは、アート作品を販売することもマルシェという企画の中で、アクセサリーにして出店、販売している。参加された方のその後の活動につながっている点が啓発効果を感じている点である。</p> <p>楽しそうな企画を複数打ち出されていて、環境啓発に非常に効果的だと感じた。事業計画書の対処分野にゴミ減量・3Rも掲げているが、ゴミの削減量などの定量的な目標はあるか。</p>
団体	<p>ゴミの削減量の目標は立てていない。ただ、別事業の中で市内に10箇所フードドライブを設置しており、活動拠点の前に置いている一か所だけでも、1年間に14kgの未利用食材が集まっている。規格外野菜の企画を通して、フードドライブの活動の活性化にもつながっていけばと考えている。フードドライブについては、ベジフルスタジアムさんとも連携できないか、相談を進めているところである。</p>

6 大濠舞鶴公園パトロール隊

発言者	発言内容
委員	<p>予算の中で気になるのが、交通費と委託費のユニフォーム代が高額である点である。交通費だけで15万円は高額すぎると思うが、どのような想定なのか。委託費の32万円のユニフォーム代も、これまでの自分のPTA等の経験から見ても、1枚あたりの単価が非常に高額である。これらはどのようにお考えか。</p>
団体	<p>まず交通費についてであるが、参加メンバーは赤坂や大手門付近に住む方が多いが、中には大宰府から来られる方もいる。これまではボランティアということで交通費は全く渡していなかったが、今後草ヶ江や西新など参加を呼び掛ける地域を増やしていく予定であることから、遠方の参加者は増加していくと考えている。そういった方にバス代などの交通費を渡せないかと考え、計上している。</p> <p>また、赤坂小学校のキャラクターの使用許可をいただいてパトロール隊のバッジを制作し、子どもたちを含むすべての参加者にお渡ししている。ユニフォームは、このキャラクターの入ったシャツを制作し、会員にお配りしている。バッジ1枚120円、シャツは1枚4500円かかっており、これまではすべて私が自己負担していた。参加される方に喜んでいただき、学校やPTAからも良い取り組みとお声掛けいただき、活動をもっと広めたいという思いがある。公園の中でゴミ拾いをしながら、防犯</p>

	<p>活動をし、修繕箇所を見つけるといった活動をしているのは、日本で自分たちの団体だけである。またインターネットで公園のパトロールと検索すると自分たちの団体がトップに出てくる。私たちの活動は今後広まっていくと確信しているが、代表である私が破産や怪我、病気などになった場合に、活動自体がなくなってしまうことは非常にもったいないと考えている。若い方に引き継いでいってもらうためにも運営する仕組みが必要である。これまでお配りしてきたユニフォームやバッジの単価を計上した結果、提出した予算書の計上となった。</p>
委員	<p>関連でお尋ねするが、団体を継続させるという点からお尋ねしたい。今年度は、市の補助金をということだと思うが、この補助金もずっと継続されるものではない。これがなくなった場合はどのように運営していこうと考えているのか。</p>
団体	<p>私は、住民が楽しみながらさまざまな視点で地域の環境を大事にしていく、SDGsにつながる活動は非常に大切で、そこを支援する地元企業が評価される時代になると思う。近しいメンバーへ相談している段階ではあるが、今後は地元企業に支援を呼びかけ、支えてくれる企業を探していく予定である。こどものときから住む自分の地元でもあるので、思いを伝えながら、支援を呼びかけていこうと考えている。</p>
委員	<p>活動内容は素晴らしい。舞鶴から大濠公園にかけての一带はセントラルパーク構想にあるように、もっと良くなる場所だと考えている。ごみを拾うなどの活動は、市民の目を公園に向ける先駆けになる活動である。しかし、団体として継続的に活動されることを考えると、私費では当然限界がある。このような活動をする人たちは、ユニフォームやバッジなどは、かっこいい物を作って販売したら買ってくれると思うので、市の予算は、これから継続的に活動をしていくためにもっと違うことに使ってはどうだろうか。また交通費も活動に参加される意欲のある方の負担でも良いのではないかと。継続的に活動していく観点からは、団体のあり方を検討した上で、違うところへ予算配分していく方が良い。意識の高い参加者のみなさんであるからこそ、そのあたりの団体のあり方を工夫されてはいかがか。</p>
団体	<p>これまでは、こどもたちに受け入れられるグッズを考えていたが、今後は20代、30代の方がかっこいいと感じてもらえるようなデザインにしたいと構想を温めており、地道な活動でも参加いただける形に進めていきたいと思う。</p>